

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の、発言の許可をいただきましたので、8番石丸、今から一般質問を始めさせていただきます。

今回私は、始めにFB良品、ジャパンスg、FBIについて市長に質問して、そのあと図書館について、反転授業については教育長に伺い、また最後に、教育特区について、情報公開について、また市長にお考えを伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

先月、NHKのテレビでシンガポールの開設の様子と、武雄から一人で、現地で頑張っておられる笠原さんの様子が紹介されました。海外での事業展開や活動は大変だと思いますが、前向きに取り組んでおられる様子が伝わってまいりました。

ところで、旧FBIとの話と今回のシンガポール事務所との違いをですね、業務内容や取り組み方、またジャパンスgとの関係を、前回のように画像で、よかったら、説明をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、議員ちょっとそれ違うと思いますよ。「画像でよかったら説明をしてください」とおっしゃいますけど、我々はそういう要求は受けておりません。それと、FBIって何のことでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

前回ですね、日本地方政府連絡協議会事務所ということで、略してFBIという説明がございましたので、その前回のと、今回の、今、笠原君が出向されている日本自治体連合シンガポール事務所の違いというところをですね、担当に、まあよかったら、皆さんにわかりやすく画像で説明をお願いしたいということを言っておりましたが、できてなかったらそこら辺の説明をですね、担当のほうからしていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

現在、笠原さんが行っているのは、日本自治体等連合シンガポール運営協議会からなる事務所に出しております。いずれにいたしましても、従来、FB良品のものをそこでやろうと言うてた部分とはちょっと今違っていてね。それでFB良品——今いる、今ジャパンスGに加入してない自治体さんも幅広く入っていただくということで、主に3つ考えております。

1つは、日本の武雄含む、日本の地域物産を取り扱っていただくようにやっていく。ここで、この取扱い先は、例えば日本のデパートであったりとか——あ、ごめんなさい。シンガポールにある日系のデパートさんだったりとか、スーパーさんだったりとか、あるいはレストランさんであったりとか、そういうところがまず1点。

2点目がインバウンドであります。要するにシンガポールには、爆発的に所得等が増えていますがけれども、そうは言っても、日本の地方というのはほとんど知られておりません。武雄を含む、地方、日本のよき地域を広めて、そこで実際の観光につながっていくという、そのインバウンドであります。

それと3点目については、これは今、いろんな自治体がここを起点にして、また事務所をつくりたいということも言っていますので、いきなりその事務所をつくるというのは、それはかなりコストもリスクも高うございますので、私どもの事務所を一定使っていただいて、そこから例えば、ベトナムであったりとか、ミャンマーであったりとか、いろんなところの、ASEANのところに出していくということもあるというふうに、大きく3点、今考えていて、今、笠原が大車輪のように活動していますけれども、これ、自治体がどんどんやっば増えていくということになるかと思っておりますので、そのときは自治体からいただいたお金を元にまた人を雇うと。この、人の雇い先については、現地なのか、ここの運営協議会なのかということで分かれると思っておりますけれども、武雄市で直接ね、雇うということは、この件については考えられないというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

インバウンドという言葉がございまして、担当課の方とお話をしている中でですね、インバウンドってどういうことですかと言ったら、観光客を誘致する、観光誘客ということで説明を受けました。

前日も市長さんに、この日本政府連絡事務所のお話を聞いたわけですが、この事務所とですね、ジャパンスgとの関係が、私もなかなか理解できなかったもので、今回また改めて質問することになりまして、このジャパンスg全体とシンガポール事務所は、いろんな面で連携はしていくけれども、別の事業としてとらえるということによろしいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

はい、そのとおりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

笠原君の身分ですけども、任期付き職員ということでございますが、どれぐらいの任期を考えておられるのか。そしてまた、現在の武雄市には、どれほどの任期付き職員がいらっしゃるのか。これ、わかったらお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

だんだん乗ってきました。武雄市の任期付き職員については、笠原君と、そこにいる松尾技監、この2名でございます。制度的に、任期につきましては、採用の日から5年以内の更新が可能ということになります。一般的に申し上げれば、3年が大体与えられた期間になりまして、それから、今、大体ですね、1年更新、1年更新となって、最大5年間というのが制度の趣旨であります。

この制度がまた、使い勝手が悪すぎる。全国的に、この地方自治法に基づいて、この地方公務員法に基づいてこの制度はあるんですけども、やっぱり5年あったら、これは首切ればいいというふうになりますので、この制度の使い方が非常に今問題になっているんですね。

そうは言っても、じゃあ、ある意味これは、試験をパスして入ってくるんですね。過去の例えば、実績とか、特殊な技能であったりとか。笠原さんの場合は、中国語ぺらぺらです。英語もぺらぺらです。日本語そこそこです。ですので、そういう特殊な、特異な技能を持つ人間。松尾技監におかれては、今までの豊富な経験とその実績というので、これも特異な技能というふうになりますので、まだ技術的な、今、指導もいただいていますので、そういう中での職員ということになって、先ほど申したとおり、これが5年間でもう切れるということが問題だと私自身は思っていますけど、これ、ただ、いかんともしがたいですので、そういう制度を使ってこの2人を、私とすれば松尾技監さんも笠原さんも最大5年間は雇っていきなと、このように思っております。非常によくやってもらってます、2人とも、はい。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

こういう、今取り組んでおられるジャパン s g にしてもですね、今後、ますます参加してくれる自治体が増えると思いますけれども、先般ですね、鎌倉 s g というのが、調印式ですかね、契約をされたということでございますけれども、まだオープンに至ってないという状況ということがあるようですが、それはどういうことが原因でオープンが遅れているのか。事情がわかったら説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはモニターに沿って説明をしたいと思います。(モニター使用) まず、鎌倉市さんとF & Bホールディングス企業連合は、先ほど議員御指摘のとおり、9月9日に契約を締結しております。それで、鎌倉市さんにおかれては、平成25年度の緊急雇用創出事業、これ、国の事業の臨時特例金、市町村交付金を活用されております。これにつきましては、自治体運営型通信販売サイト構築運営業務委託事業ということになっておりまして、契約金額が720万ちょっととなって、契約期間が、契約日から平成26年の3月31日までとなっておりますというふうに聞いております。

今、御指摘のとおり、いくつか議会等で、もめているといえどももめているということなんですけれども、何がもめているかということについて、鎌倉市さんから正式に回答をしてくださいということがありましたので、私どもとしては、ここのモニターに記載してありますとおり、当企業連合が契約の相手方としての的確性、出資比率、損益の分配、消費税の取り扱いということで聞かれていますので、それに沿って答えたいと思いますけれども。

まず、当企業連合が契約の相手方としての的確性について、については、これはうちの顧問弁護士とも確認しておりますけれども、民法上の任意組合としての要件を満たしていますので、契約の相手としては問題はないと。

それと出資率については、もともと私どもとしては、これはいわゆるお祭り進行協議会みたいなものを想定していますので、出資日程についてはさほど考えていなかったことは事実なんですけれども、いったんちょっと整理をいたしますと、これは御指摘のとおり、私どもとしては、導入支援であったりとか、ローンを出資するという。ただしこれを、価額として、いわゆる価値として算出するには、時間を要し、調査をしなければいけないということですので、平成25年度終了時をもって出資比率を、算出をこれはしたいということを思っています。これは鎌倉市さんの御指摘をしっかりとふまえてまいりたいと思っております。

損益分配については、これについては、構成員相互で申し合わせを行っておりますので、これについても特に問題はないというふうに思っています。

消費税の取り扱いについては、これは先ほど申し上げたとおり、雇用創出の基金事業における消費税の取り扱いという厚生労働省のペーパーがありますので、これについては、出資分配の比率を定めたあと、武雄市、これはもちろん、私どもも免税事業者でありますので、これにかかる消費税分を減じ、適正に対応するというようにしておりますので、この点を、今、鎌倉市さんに申し上げていて、そろそろ決まるんじゃないかなということを思っていますので、それについては見守ってまいりたいと思っております。

いずれにしても、鎌倉市さん側の事情、判断というものがありますので、これについてはしっかり見守っていききたいというふうに思っています。

ただ、こういう議論があること自体は非常にありがたいと思っていますので、これは鎌倉市さんに感謝をしたいというふうに思っています。やっぱり議論があって万機公論に決すべしだと思っていますし、我々はそういう御懸念とか、御疑念についてはちゃんと答えていくということ。これについては、これは顧問弁護士ともしっかり相談をしておりますし、中でもしっかり議論を、私を含めて議論をしていますので、非常に勉強になっておりますので、これは粛々と私のこととしてやっていきたいですし、これは鎌倉市さんにとどまらず全国に今広がりつつありますので、ぜひ議会の御支援、御協力も賜りたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

この事業の発展のためにですね、なるべく早く解決して、できるだけ多くの自治体が参加できるようにやってもらいたいと思います。

続きまして、図書館について伺います。先般ですね、図書館においての避難訓練、防災訓練が行われたようでございますが、そのときの様子、どのような体制で行われたかということをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

図書館において、出火を想定してですね、訓練を行っております。訓練の内容ですけれども、消火訓練、通報訓練、避難誘導訓練等でございます。開館は9時でございます、9時10分頃をですね、出火をしたという想定で、ボランティアの皆さんとか、それから来館者の皆さんも一緒にですね、訓練に入っていたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

訓練は、あと1回行われる予定だと聞いておりますが、来館者の参加とボランティアの方。そのボランティアの中にはですね、通常、いつもいろんなボランティアで活動されている読書ボランティアの方とか、そういう方も含めて行われたということですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

ボランティアの皆さんはですね、常日頃、図書館の運営に御協力いただいているということでございます、当日もそういったボランティアの皆さんに御参加をいただいたいというこ

とでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

ありがとうございます。近くにはですね、保育園などもありますので、保育園の園児の方も時々来館なさっておられると思いますので、次回の訓練のときにはですね、そういう子どもたちにも参加してもらって、防災訓練をしていただければと思います。

次は、前回もちよっとお尋ねいたしましたが、朗読コーナーの横の非常口の階段ですね。段差について、私これ改修が必要じゃないかなと、非常口も兼ねてますので。このことについて何か、消防のほうから何か、別にございませんでしょうか、指摘は。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

段差につきましては、約10センチほどですね、ございますので、若干気になるかなという程度でございますけれども、検討してまいりたいというふうに思っています。消防のほうから特段の御指摘はいただいてないというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

指摘は受けてないけれども、考えていくということでございますね。

続きまして、新庁舎がですね、一応、建設という方向ということで向いておりますけれども、昨年の12月の議会にはですね、新庁舎が建設の折には蘭学館について考えていきたいという市長の答弁もございましたが、今度の新庁舎を建設するにあたりですね、蘭学館の建設についてどのように考えておられるか、市長の。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

蘭学館については、私自身、さきの議会でも申し上げたとおり、今度新しくできる庁舎の一角、あるいはその機能を使ってというふうに思っておりますけれども、これについては議会の御判断に最終的にはなります。ですので、私どもとしては、執行部と議会とよく調整、相談をしながら、最終的な形は議会が判断されると思いますので、議会の中でしっかり御議論を賜ればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

旧蘭学館のですね、旧備品とかですね、今、武雄駅のギャラリーの中に、先人たちの陶板ということを利用して展示されておりますが、ほかの前持ってあった備品をですね、今後どのように活用していこうと考えておられるか、教育長お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

什器等の備品の関係でございますけれども、これにつきましては、小学校、中学校、あるいは公民館等にですね、活用していただきたいということで希望を取りまして、御希望のですね、小学校、中学校、公民館等に引き取っていただいて活用してもらっているというのが実情でございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定議員）〔登壇〕

その中で、新しく蘭学館をつくるとして、その利用可能な備品というのはどれくらいございますか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

新蘭学館と申しますか、それにつきましては、先ほど市長から答弁あったとおりでございますけれども、具体的なものがですね、まだわかりませんので、今、御答弁できる材料は持ち合わせておりません。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

今の図書館でですね、来館者が多いので、駐車場の問題や、あと、いろんなキッズライブラリーとか分館という声がちょっと漏れ聞こえていますけれども、市長としては今後どのように考えておられるか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この答弁に入ります前にね、僕は甚だ残念なのは、武雄青陵中学さんが、武雄市図書館については、商業施設の色合いが非常に濃いので、保護者同伴で行くようにということを持って。大丈夫かな、と思いますよね。そんなこと言ったらですよ、あれですよ、なんですかね。

ゆめタウンなんか、行けないですよ。あるいは、春祭りですね、屋台とか行ったときに、行けないですよ。青陵中学、大丈夫ですか、本当。これはね、僕はね、非常に問題だと思いますね、僕は。

ですので、これ、真意については直接、僕は校長等から聞いたわけじゃありませんので、これはしっかり聞きたいと思っています。ですので、そういうね、なんていうんですかね。常識と違うようなことをね、中学は言っちゃだめですよ。僕はね、それは非常に不見識だと思っています。もう憤りも感じています。ですので、もし私が聞いたことが間違いであればね、それは率直に、また謝りたいと思っていますけど、各方面から、議員さんからもいろんなところからそれは聞いてますので、たぶんおおむね当たっているとは思っていますので、これについては青陵中学校の校長の見解を聞きたいと思っています。

その上で私は、多くの皆さんたちがね、非常に満足をしてくださっているということ。そしてきょう、御船が丘小学校の皆さんたちもきょうお越しになって、何人かの多くの子は、僕は図書館でも会ったことがありますし、どうって聞くと、すごくいいと。前の図書館よりもはるかにいいということも言ってますのでね。ですので、そういう意味では僕は安心はしております。

そういった中で、何を申し上げたいかということ、キッズライブラリーであるとか、あるいは、その駐車場の問題っていうのは、これはもうある意味、今、武雄市の市政の根幹にかかわることでもありますので、私の次の市長選の選挙公約にしっかり載せて、これは市民の御判断を賜りたいと思っています。このときに、私の公約の中で、選挙公約の中で、今後、図書館については、これは教育委員会の所掌でもありますけれども、もちろんこれ、予算の編成権は首長にありますし、その決定権は議会にありますので、そういった私の権能の範囲内で、権限の範囲内で、私の考えについては選挙公約でしっかり書いた上で、議会、あるいは市民の御判断を賜るべく、準備を今、進めております。ですので、ちょっともう少し時間をいただければありがたいと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

次に、反転授業についてお伺いいたします。先ほど、教育監から授業の進め方などについて詳しく説明がございましたけれども、そのことに対しては、教育委員会でもいろんな議論がなされたと思います。その中で、どのような課題があるかとか、どのような意見が出たと。それで、この反転授業を行うことによって、将来的にどのような子どもたちの将来像を考えておられるか。そこら辺をちょっと、教育長としてお話をいただきたいと。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

このことにつきましては、10月の教育委員会におきまして、話をしております。教育監および学校教育課より説明を行っております。タブレットが入りますと、このほかにもですね、今、先ほどの教育監の説明以外にも、いろんな活用の方法が考えられるわけでありまして、その辺まで含めてですね、御意見等を伺ったところでございます。それからまた、保護者の方への説明会とか、あるいは持ち帰りによる破損とか、そのあたりのことについて、御意見等も伺えました。それから県立高校が導入するというので、中学生への導入等にも急いでほしいというような、御意見も出ております。そういうことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

先ほどにも教育監の話にもございました今後の課題としてですね、家庭に帰って、そういう予習をする環境にないという子どもたちのために、社会的——放課後の場を設けて、そういう場をつくりたいというお話がございましたけれども、現在ですね、学校にはボランティアティーチャー、また、公民館には生涯学習ボランティアという方々がおられますけれども、こういう方をお願いして、いろんな活動を行うというお考えはございますでしょうか。そこら辺。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

現在、放課後学習でサポートしていただいている先生やボランティアの方々に、一からタブレット端末の使い方を教えて、サポートしていただくという考えは現在はありません。小学生の児童が自分たちでできるように、ここは学校の範囲内でできるようにしたいと思います。

ただ、その一方で、放課後学習の中でも、タブレット端末を指導したいというような先生方や、地域の方が出てくるとお思いますので、そんな方々のためには、個別にですね、実際にタブレット端末の使い方とか指導の仕方、指導、研修会、勉強会みたいなものを開いていって、みんなのできるような環境は整えていきたいというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

ぜひそういうふうですね、やっぱりかかわりたいけれども、どういうふうにとったらわからないという方もおられるとお思いますので、そこら辺を今後検討していただきたいと思っております。

続きまして、教育特区ということについてお伺いします。特色のある教育を実施することで、その仕組みをつくることで地域社会の活性化につなげていこうということで、平成15年度から始まった構造改革特区の認定ですけれども。

少子高齢化による地域の労働力の減少、核家族の進展による地域コミュニティの喪失により、大きく変わろうとしている地域社会を活性化するためにですね、目的でつくられた、この教育特区ということについて、市長はどのようなお考えをお持ちなのか、伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今のままで、浦郷教育長を初めとして、今度は代田教育監も加わっていただきましたけれども、私は教育委員会の今の活動については、極めて満足をしております。よくやっております。ですので、そういった中で、その不備を補うために教育特区と、もしあるとするならば、一切考えておりません。武雄市はよくやっています。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

現在、教育特区という考えはないということですね。

〔市長「現在も、将来もありません」〕

はい。それでは、一つの考え方としてですね、公教育の民間委託ということについては、市長はどのように考えておられるか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは、民間委託っていうのは定義をちょっとはっきりさせたほうがいいと思うんですね。議員がおっしゃる民間委託っていうのはどういうことを——もう少し、ちょっと具体的におっしゃっていただいて、その上で議論をさせてもらえればありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

例えば、建物っちゅうかですね、学校自体は市が管理する中で、その中で、その内容というんですかね、その教育内容っちゅうか、その、民間の、そういうふうに委託してやるという考えですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと、議員の御質問を賜ったときに、最初に建物っていう話がありました。建物については、これは公教育の施設の基本的な法律等がありますので、これをちょっと委託するっていうのはちょっとありえない。法治国家としてはちょっとありえないというふうに認識をしているんです。学校施設に、小学校、中学校に、例えばPFIとか持ち込むっていうのは考えておりません。あくまでも、これについてははっきり、市がね、やっていくべきものだと思っております。

次の内容について、ちょっと私が逆にお伺いしたいのは、教育の内容っていつでもものすごく幅が広いんですね。例えば、今、土曜日の学習については、放課後学習については、塾の皆さんたちの教育を、御協力を一緒に仰いでいるという関係にありますので、もう少し、その中身をもう少し具体的に、教育の内容の中でどういったことが、例えば、それに当たるのかっていうことを、もう少し明示をしていただければありがたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸定議員

○8番（石丸定君）

特区という考えがないということでございますが、一応、そのお話ということで。

現在、高校再編ということで、また動きがっておりますけれども、前回の教育委員会、文教委員会でも県立、武雄が高校の門が狭いので、県のほうにお願いをしたという経緯がありますけれども、武雄市としてですね、小中、中高一環の高校をつくって、新しい——呼び込むという考えとかはございませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まずさきの答弁で、例えば、民間委託の話がちょっとすっとなってしまったので、ちょっと私からちょっと考えをまず述べたいと思うんですが、その民間委託について、丸投げっていうのは絶対考えておりません。丸投げは考えられない。

しかし、例えば武雄市図書館でもそうなんですけれども、あれも全然丸投げじゃないんですよ。指定管理者という制度を使って、CCC、カルチャア・コンビニエンス・クラブのいろんな運営とか企画のいいところを取り入れてるということでやっていますので、これからはそういう委託じゃなくて、取り入れていくということがすごく求められていると思います。

その一方で、主体はあくまでも学校の先生だと思います、僕は。私の兄弟も教諭をやりますので、よく話をしますけれども、今、やっぱ学校の先生がね、どうしても中心にならな

いようなことになりつつあるから、それは、僕は違うと思っていますので、武雄市においてはあくまでも学校の先生が主体的に、能動的に、やる気を持って働いていただくような環境をつくるということ。これは、さきの古川盛義議員にも答えましたとおり、そういう環境整備ってというのは絶対必要だと思っています。

その上で、先ほど申し上げた、土曜日のあの学習であったりとかね、英語であったりとか、塾の予備校のいいところはどんどん取り入れていきたいというふうに思っていますし、これは特区とは関係のない話です。我々はできる範囲内で、できることを精一杯やっていくというのが、樋渡市政の根幹でありますので、それは堅持をしていきたいと思っております。それと、御質問何でしたっけ。

〔8番「市立で」〕

あ、これは、そういう——これは上田議員とよく議論してますけれども、上田雄一議員と議論してますけど、そういう夢はあっても、そういう考えはありません。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）

ありがとうございます。夢はあるということですね。

最後に、情報公開について伺います。現在の、各課で公文書の情報公開に向けて、市は公文書の電子化、スキャン作業をしておられますが、電子化した情報の保管については十分配慮する必要があると思います。電子化した文書を格納するためのサーバーなどのセキュリティの対策を、現在どのようにお考えになるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

セキュリティの対策ということで御質問でございます。原則的にですね、閉鎖された、イントラネットと言いますが、組織の中では閉鎖されたIT環境をつくるというのが一番、根本原則となっております。その閉鎖系の中に外からアクセスするという場合が発生する場合については、いわゆる鍵を掛ける。セキュリティの鍵を掛ける。こういう機能をプログラム上入れ込むと、こういう原則となっております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

今回ですね、この情報公開についてということで、このスキャンの問題を質問したのはですね、前、市長さんがフェイスブックか何かで、自由に情報公開、解析しなくても、自由に情報を取られるように、真の情報をあげたいと。そのときはエバーノートという話がありま

した。この間お話を聞いていった範囲では、エバーノートの話じゃないということでございましたので、そういう、その、公開する文書ですね、それに対しての、公開するにあたってですね、その電子文書について、この文書が正確であるかどうかということを担保するためにですね、電子署名という制度があると思います。今回の公文書の電子化は、原本をスキャンして保存したり、公開するということがようございますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれ、ちょっとここは詳しく説明させてほしいんですがね。何で、我々がやろうと思ったのかは2つあるんです。

1つは、東日本大震災で、これは山口昌宏議員さんたちと一緒にいったときに、例えば、陸前高田市の市役所行ったときに、書類がもう散乱していて、あるいは流されたりして、とてももう、とてもね、ちょっと言葉が適切かどうかわからないけれども、もう使い物にならない状況になっていて、行政というのは、もう本当、ペーパーが至上主義なんですよね。どういう契約をしたかとか、どういう配置をするかっていうのが、一切合切、流されている。流されてないまでも、もうインク等がにじんで、もうとても使い物にならないっていう状況は、これは朝長議員さんも、山口等議員さんも、上田議員さんも、皆さんたぶんそこは思われていると思うんです。実際に行かれた方は、思われていると思うんです。

そういうことにならないように、責任的な行政を進める上で、災害から守るためにどうすればいいかといったときに、これはもう電子化しかないということなんです。それも複数やっぱり用意しておく必要があるだろうと。1カ所サーバーに入れといて、それがダウンを起こすと使い物にならないっていうことにもなりますので、これは複数用意しておく必要があるだろうと。さすれば、それを公開するかどうかということについては、これは別の議論になると思うんです。

一番私たちが今、困っているのは、昭和 38、39 年当時の資料をちょっと集めたいと思っていて、これは何かというと、当時、武雄市役所、ここですよね。この武雄市役所をつくる時の書類が一切、何も残っていないんですね。仮に残ってたにしても、どこにあるかわからないんです。ですので、どういう経緯、経過をたどって、いろんなことを知っている人から聞くっていうのはあるんですけども、それが残ってないばかりに、やっぱりね、その先人の知恵が借りられないという状況になっているんです。

ですので、こういった、今、庁舎のいろんな作業を私どももやっていますし、議会でも精力的にやってくださっていますけれども、それをきちんとペーパーに残してね、残して、これは僕は公開すべきだと思うんです。公開すべきだと思っていますので、議会、市役所のみならず、公開すべきだと思っていますので、そういう思いを込めて、やっぱりこう、残した上で、

公開できるものはすべからく僕は公開するべきだと。

公開できないものについては、例えば個人情報が入っているとか、さまざまな制約条件がつくものがあります。これについてはしっかりこう守っていくということになりますので、保存と公開がセットにはなっておりません。

ですが、私が知る限り、ほとんどの文書っていうのは公開できます。個人名が入ったりとかっていうのはないので、行政文書には。特に企画系のものにはないです。ですが、くらし部系のものであったりとか、特にくらし部は多いんですけど、そういったものを公開するっていうのはありえません。しかし、電子化して、ちゃんと保存をするということは、これはさきの東日本大震災から我々が見聞したことからすれば、それは残すべき問題だというふうに思っていますので、これを相互に分けて、きちんと議論をしていって、これも、特にIT特別委員会でね、また議論をぜひしてほしいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

それでは、現在のところですね、電子署名というシステムを導入する考えはありでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

電子署名、なかなか聞き慣れない言葉ではありますが、平成13年の4月から施行されております。法は、電子署名法というものでございます。

この法律の中身でございますが、「一定の要件を満たす電子署名が行われた電子文書等は、真正に成立したもの」という表現になっております。本人の意志に基づいて作成されたもの。これをわかりやすく説明しますと、先ほど申しました、セキュリティの鍵と申しましたが、この鍵の認証をですね、与えるというだけの効果のものでございます。

ですから、情報公開の、先ほど申されております、個人情報保護の対策になるということの法律ではございません。そういうことで、結論的に申しますと、電子署名を導入する考えはございません。

○議長（杉原豊喜君）

8番石丸議員

○8番（石丸定君）〔登壇〕

電子署名を取り入れるつもりはないという答弁でございましたけれども、物の考え方ですけれども、電子化したデータをですね、電子署名をした上で、これが原本となるというふうに、将来的にして、保管したほうが、私はいいいんじゃないかなとは思っておりますけれども、

現在のところ、考えがないということでございますので。

それです、今現在です、武雄市はいろんな方面から全国的に注目されておいて、いろんな問い合わせや情報の開示が行われておると聞いておりますが、こういうことに対してです、スムーズに取り組み、大変、いっぱいそういう問い合わせが来ていると大変だと思いますけれども、こういう作業がですね、こういう問い合わせに対してスムーズに行う、行われていくことを期待いたしまして、今回の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、8番石丸議員の質問を終了させていただきます。